

床置形システムパッケージ 据付工事説明書

PGC012D104

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。
ワイヤレスキーの取付方法は、ワイヤレスキー付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法は、電気配線（室外）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの取付方法をご覧ください。
本ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**【危険】**、**【注意】**に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**【危険】**の欄にまとめて記載しています。しかし、**【注意】**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。**【絶対に行わない】**、**【必ず指示に従い行う】**

●据付工事後、設置転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法、お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様へ保管いただくようにしてください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書をお渡しいただくよう依頼してください。

△警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると、破裂、ケガの原因になります。また水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 境界線を越えない対象については、販売店と相談して据付けなす。万一、冷媒が漏洩して境界線を越えると酸欠事故の原因になります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
指定した部品がなかった場合は、ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。
- 据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
- エアコンの設置や移動の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒（R410A）以外の空気などを入れない。
空気が入ると冷凍サイクルが異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電圧回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続が固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの配線は、電子パネルが浮き上がりからなすように配線し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付けが不完全な場合は、電子回路部の発熱、火災、感電などの原因になります。
- 据付工事後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具はR410A専用のものを使用する。
圧縮機を運転します。サービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクルが異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締める。
フレアナットの締め過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- フレア配管はエアロスガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。
室内に有毒ガスが入ると、中毒や窒息死になる恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
- 冷媒配管は圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクルが異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- ポンクレーション作業は、サービスバルブを閉じた後配管をはずす前に圧縮機を停止し、冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクルが異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 改修は絶対に行わない。また、改修はお買い上げの販売店に相談する。
無理に不備がある場合は、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- エアフィルタを取り出しただけで運転しない。
燃費の悪化、高温部、高電圧に接触すると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後据付工事をを行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。

△注意

- アース（接地）を確認を行う。
アース線は、ガス配、水道管、配管、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
- 漏電遮断器は必ず取り付ける。
漏電遮断器が取り付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量の全線遮断するブレーカ（漏電遮断器、手元開閉器（開閉器+B極ブレーカ）、配線遮断器）を使用する。
ブレーカが不適当な場合は、感電事故や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外を使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 可燃性ガスの漏れ恐れのある場所への設置は行わない。
ガスが漏れやすくなる原因になります。
- 燃費ガス（亜硝酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、排気引取り物を取扱う所の据付け、使用は行わない。
結露の発生、プラスチック製品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
- 工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの電圧によるケガの原因になることがあります。
- 洗濯槽など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしてありません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。
- 食品、動植物、精密機器、美術品の保存など特殊用途には使用しない。
除湿、通風業務所など電磁波が発生する機器、電磁波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。
- 直射日光の当たるところに据付けをしない。
リモコンの故障や劣化の原因になります。
- 次の場所への据付けは避ける。
・可燃性ガスの漏れ恐れがある所
・腐食性ガス、塩酸ガス、酸、アルカリ・アンモニアなど、・煙突の煙がかかる所
・燃費に影響する機器の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理機、機械工場など）
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・高周波が発生する機械を使用する所
・積雪が多い所
・海や塩害が頻りに多い所
性能を著しく低下させたり、部品が高食、破損したりする原因になることがあります。
- 次の場所への室内機の据付けは避ける。（機種により異なる制限があるため、その指示に従ってください）
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
・強風が吹くので、風速を抑制する所
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
・高周波に影響される機器のある所（TVおよびラジオ等の近傍）
・ドレンの排水かたれない所
性能や燃費に影響をおよぼす原因になります。
- エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。
- 長期使用で菌だまの据付台を使用しない。
菌だま状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。
- ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタがユニットに入った場合、ドレンパットの確保（ヒューズ）をたえ、水漏れなどの原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしなくてはなりません。
- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合は、専門業者に依頼し、適切な方法を指導していただく必要があります。
- 冷媒配管は圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
万一、狭い空間に冷媒ガスが漏洩して境界線を越えると酸欠事故の原因になります。
- フレア配管は下り配管（1/100）とし、途中に逆流やトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に行わない。
配管時にドレン排水が確実に稼働していることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
- 冷媒配管の接続は信頼しにくいように確実に行う。
不完全な配管施工を行うと配管が結露し、水滴なども発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が登り、内部の電気部品に触れると、故障や発熱、発火の原因になることがあります。
また、お気をつけください。
- 製品の運搬は十分注意して行う。
20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないで下さい。
重手作業で運ぶと、内部の電気部品に接触すると、故障や発熱、発火の原因になることがあります。
- 梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクニなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。
- フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。
- 運転中手作業でファンを操作しない。
感電の原因になることがあります。
- 運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は凍る冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。
- エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

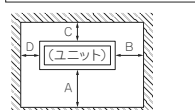
①据付けのまじ

- 据付けはこの据付説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
- 機種・電源仕様 ○配管・配線等

②室内ユニットの据付場所の選定

- ①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承諾を得て選んでください。
- ・冷風または暖風が十分に行きわたる所。
 - ・ビルの中間階。（地上階などの床下の地熱の影響を受ける所では、十分な効果が得られないことがあります）
 - ・据付・ワイヤレス時の作業スペースが確保できる所。
 - ・ドレン排水が確保できる所。ドレン勾配のとれる所。
 - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - ・侵入外気の影響のない所。
 - ・直射日光の当たらない所。
 - ・周囲の露点温度が23℃以下、相対湿度80%以下の所。
- （本ユニットはJIS据付条件に試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高温多湿状態の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの新熱材を取付けてください。）
- ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります）
 - ・ユニット落下に注意。食器やパソコン、カーパー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
 - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
 - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
 - ・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
- ②据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。

室内ユニット据付スペース



Aはフィルタを取り出しスペースとして500mm以上必要です。また、下部は電装品ボックスへのアクセスも必要となります。
Bは、吸込ダクト接続スペースとなります。（4.0mm以上を確保ください）
Cは施工スペースです50～100mm以上確保ください。
Dは施工スペースです50～100mm以上確保ください。ただし冷媒配管やドレン配管を左側接続時はこの施工スペースを確保ください。

空気条件・風量条件

マルチシリーズ	風量 (m³/min)		室内ユニット吸込空気温度		室内ユニット周囲の空気温度
	下限	上限	冷房	暖房	
140	50Hz	29	40	上限27℃WB 外温20℃WB以下	露点温度 23℃以下
	60Hz	30	42	下限10℃WB 外温-15℃WB以上	
224	50Hz	44	58	上限26℃WB 外温35℃WBのとき	
	60Hz	46	60	下限16.5℃WB 外温-5℃WBのとき	
280	50Hz	60	80	上限27℃WB 外温20℃WB以下	
	60Hz	63	82	下限10℃WB 外温-20℃WB以上	

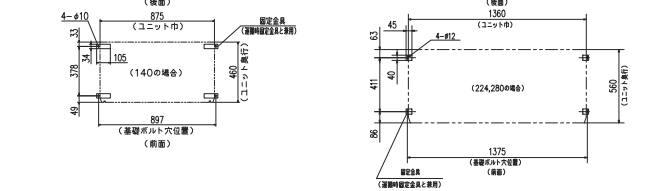
③搬入・据付け

- 搬入時はできるだけ据付場所の近くまで梱包状態のまま搬入してください。
- 開梱して搬入する場合、ユニットを傷つけないよう搬入してください。

据付

1.基礎ボルト固定方法

下図の寸法により基礎ボルトで本体を固定してください。



▶基礎ボルト位置（ユニット上面より見た位置）

▶基礎ボルト位置（ユニット上面より見た位置）

2.転倒防止金具固定方法

下図の方法により転倒防止金具でユニットの転倒を防止してください。

注）固定する壁面が強度であることを確認してください。



